

1-1 地域ビジネス革新プロジェクトの目標と概要

1. 地域ビジネス革新プロジェクトの目標

本プロジェクトは、様々な地域ビジネスの検討を中心に地域農業・農村地域社会の将来像とそれらの活性化方法の探求を目的としている。そして、そのために次の3つの課題に取り組んでいる。その課題とは①地域資源の保全と活用を考える、②新しい農業・農村ビジネス・流通モデルについて調査・分析する、③農村社会が直面する課題発見・整理をおこなう、ことである。

2. 地域ビジネス革新プロジェクトの活動内容

3年次では、まず農業・農村の活性化に必要な知識や分析手法を学んだ。そして、秋田県を中心に6次産業化や持続的農業および農村活性化に向けた諸活動の実情や課題について調査・分析をおこなった。4年次は、3年次の活動を土台として、本プロジェクトの目的に沿った卒業研究課題に取り組んだ。今年度の卒業研究で取り組む分野は、1) 食と農を結ぶ地域ビジネス、2) 農産物流通・マーケティング（産地、販売）、3) 持続的農業の展開の3つである。

3. プロジェクト活動における卒業研究課題の位置づけ

1) 食と農を結ぶ地域ビジネス

1-2 規格外農産物や未利用資源を活用した商品開発の実情と可能性 — 秋田県を事例に —

(小國 和貴)

規格外農産物や未利用資源を活用した商品開発の実情を明らかにし、その可能性を考察することを目的とした。調査分析の結果、①サプライチェーンの構築を視野に入れた商品開発を行うことで、その後の商品化につながりやすい、②食品の機能性に注目することで規格外品でも粉末化などの形で有効利用しやすい、③商品開発は農業、製造業と試験研究機関の連携が大切なことが明らかになった。

2) 農産物流通・マーケティング（産地、販売）

1-3 民間育種家が産地形成に与える影響について — 秋田県における切花ダリアを事例に —

(高橋 悠)

秋田県は米依存から脱却するため、複合型生産構造へ転換を進めている。園芸品目生産の中でも産出額の伸びている花き、また秋田県としてのオリジナル品種を持つダリアの振興に着目した。そして、第3期ふるさと秋田農林水産ビジョンが方向性としており、約10年間取り組んでいる民間育種家と連携した県オリジナル品種の開発が産地の形成にどのような影響を与えたのかについて明らかにする。

1-4 秋田県のアンテナショップにおける課題解決に向けた取り組みのあり方

— あきた美彩館のケーススタディ —

(菅原 史織)

東京都内の秋田県のアンテナショップが特産品販売やファンの創出等にどのように貢献できるか、ショップの実態を明らかにし、その課題解決のあり方を探ることを目的とした。

調査・分析の結果、テスト販売の一層の充実と新商品等の情報発信の強化、観光PR動画の導入などショップ活動の情報発信の多様化等が必要であることが明らかになった。

3) 持続的農業の展開

1-5 農家主体の産消交流の意義と可能性

(荻野 迅人)

有機農業を含む持続的農業は、消費者グループや生協と生産者が運動として直接繋がることから始まった。そこで重要なのは相互の信頼関係であり、信頼関係構築のため、積極的に農作業体験等の交流が図られていた。しかし現在は、農家個人で消費者と交流する経営体が見受けられるようになった。そこで、その意義と課題を明らかにし、可能性について考察する。